7　単元の評価規準

Aコミュニケーションへの関心・意欲・態度	B外国語表現の能力	C外国語理解の能力	D言語や文化についての知識・理解
ペアワークやグループワークにおいて、得た情報や自分の考えを積極的に伝えることができる。	貧困の現状やその原因と、それを踏まえた解決策を論理的に説明することができる。	教科書本文やそれ以外の資料を読み、貧困の現状やその原因を理解することができる。	貧困層の人々の生活の実態を理解し、彼らが直面している衛生や飢餓など様々な問題を解決するための方法を考えることができる。

8　本時の学習

（1）貧困層の人たちの暮らしの実態やその原因などを理解し、それに対する解決策や自分たちができることを考え、他者に伝えることができる。

（2）指導計画

過程	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 10分	・Warm-up ①身近な問題に対する解決策を考え、ペアで発表する。 ②その問題が生じる原因を踏まえて解決策を再検討し、より具体化する。 ③クラス全体で意見を共有する。また問題を解決するためには、その原因を知ることが大切だということを確認する。	・問題解決を図るためには、まずはその現状や原因を知ることが大切だということを体感させる。	
展開 30分	・本時の目標を提示する **貧困の現状や原因を踏まえて、貧困問題を解決するために私たちができることを考えよう** ①本やインターネットの記事などを使用して得た、貧困の現状やその原因などの情報を他者に伝えるための準備をする。 ②ペアを変えながら、得た情報を伝える。聞き手は必要に応じてメモをとったり質問したりする。 ③貧困の現状や原因を踏まえて、解決策を個人で考え、付箋に記入する。 ④解決策をグループで共有する。新しく思いついたことがあれば、随時付け足す。 ⑤ペアやグループで出た解決策を参考にしながら、自分たちにできることを話し合う。	・関連資料をパラフレーズせずにそのまま読ませることで、実際に情報収集する際のコツを習得させたり、情報を理解できたときの達成感などを体感させたりする(authentic materials の使用)。 ・得た情報を、ペアを変えて何度も伝えさせることで自信をもたせる。 ・得た情報を踏まえた解決策を、個人→ペア→グループと段階を踏んで共有させることで、より多くの意見が出るように促す。	
まとめ 10分	①貧困の現状や原因や、それを踏まえた解決策、そして自分たちにできることを個人でまとめ、発表準備をする。 ②ペアで1分間ずつスピーチをする。 ③全体で共有する。発表内容や使用表現についてのコメントを聞く。 ④スピーキングした内容をライティングする（残りは宿題）。 ・本時の振り返りをする。 ・「解決策」を探る際に必要なことを確認する。	・得た情報やそれに対する自分の考えなどを関連づけて発表させる。 【評価】抽出により、観察をする。 ・スピーキングさせた内容についてライティングさせることで、「流暢さ（fluency）」の意識ももたせる。 ・ライティングを宿題にすることで、付け加えたい情報（実際に行われている取り組みなど）や分からなかった表現を自身で調べる時間を与える。	B